

# 日安は葬祭サービスガイドライン

## 「安心・信頼マーク」として定着

秋分の日をさむ一週間は秋のお彼岸。長引くコロナ禍の中において感染対策を講じながらも静かな供養が各戸で営まれる。お彼岸の行事は本来仏教の色彩が濃く、供養の機会を持つて馴染み深い。お盆のように、お墓参りが一般的となっている。このような供養の形式は各国で異なっても亡き人を偲び、慈しむ「祈りの思い」は万国共通だ。その文化は日常の育みの中で継承されてきた。祈りのイベントで最も大切なのが「葬儀」だろう。葬儀をめぐってはネット広告の不当表示、追加料金発生に絡む消費者トラブル、互助会加盟企業と消費者との解約紛争など、心配される相談事例が目立つ。違反表示で集客するネット事業者や大手流通系葬儀社への消費者庁の行政処分も相次いだ。納得できる葬祭サービスを受けるにはどうしたらいいのか。お彼岸を機会に考えておくべきことからは多い。消費者の選択目安となる「葬祭サービスガイドライン」を策定し、認定マーク制度を導入している全日本葬祭業協同組合連合会（全葬連）は、地域に密着した葬儀社など事業者選びを出発点に置くことを消費者に提案している。

の大切さを想い、本人はじめる葬儀とするための遺族を支援する視点こそ重視される。全国大会で石井会長は、その使命を担うのが全葬連の会員葬儀社と示唆した。

とはいえ、環境が激変する中、事態はより深刻化。各地で地域コミュニティの崩壊が顕著となり、それに伴い重大な法事である葬儀をめぐっても多様な形態が登場。葬儀事業者が執り行う一般葬から、肉親や近親者だけの家族葬、さらに病院で死亡診断された直後に火葬斎場へと直行される「直葬」など様々。全葬連では「何よりも本人、遺族が納得できる葬儀を目標にする」としている。

◎消費者トラブル防止へ 安心マーク全国展開 インターネットの普及を背景に葬儀の紹介業者が増加した。全葬連会員葬儀社の名称を無断で記載し、オトリ広告のようにして消費者を勧誘するサイト運営事業者の例もある。全葬連ではその是正を働きかけながら、人の尊厳を支える社会性・地域性を大切にした地域密着型事業としての展開を担っている。

全葬連の「葬祭サービスガイドライン」は、葬儀社の最低限のルールとして策定された。本人・遺族が安心できる葬儀とするための道標だ。消費者の信頼性確保へ向け、遵守事項を規定。「顧客情報を守る」「遺族の選択の意思を尊重する」「相談窓口を設置する」「料金体系の明確化」「価格の提示」「見積書の交付」などトラブルの未然防止策を盛り込んでいる。会員事業者はその遵守を義務付けられ、全葬連から交付されたマークを消費者の選択に資するよう事業所などに貼付している。

◎生前予約 f 共済会 全葬連に設置 全葬連の f 共済会は遺された人々の負担を少しでも軽減するために誕生した相互扶助システムだ。本部は全葬連に置かれている。生前予約は入会金一万円。月会費はなく生涯会員となる。全葬連の会員葬儀社とのつながりが「もしものときのサポートだ。入会会員には二親等以内の方が亡くなった場合に、基本葬儀料の二〇％が「弔慰金」として支給される。詳細は全葬連ホームページ「f 共済会」まで。

## 地域に密着 全葬連の取組

◎事前相談を実施 事業者選定の要件に 今年六月、全日本葬祭業協同組合連合会（全葬連）の石井時明会長は、横浜で開催した創立六十五周年記念全国大会と国際葬儀連盟の創立五十周年記念日本大会の場で、こう述べた。

「葬儀は亡き人を優しく弔うのが世界共通の認識」「ご本人はもとより、遺族の方々の思いに寄り添って葬儀を執り行うのが全葬連会員葬儀社の使命」

地域密着を基本に 葬祭業には登録制度も許認可制度もない。そのことが葬儀を取り巻く社会の認識にも影響を与えている。ご遺体処理するだけの考えは「利益優先」となり、優先し弔うことは遠く隔たる。葬儀を通したいのち

唯一の葬祭専門認可団体として、各種の業界健全化策を展開している。昨年五月には「新型コロナウイルス感染症防止ガイドライン」を作成、会員葬儀社の事業所・ホールに「ガイドライン実施宣言」を掲示している。

◎「本人・遺族に寄り添い 地域密着を基本に」 葬祭業には登録制度も許認可制度もない。そのことが葬儀を取り巻く社会の認識にも影響を与えている。ご遺体処理するだけの考えは「利益優先」となり、優先し弔うことは遠く隔たる。葬儀を通したいのち

## お彼岸考 一考

# 「優しく納得できる葬儀を」

# R 短 信

◎カインズ「ペットフード」  
カインズ(埼玉県本庄市)は八月十七日、ペットフード「Pet's One 豚耳カット 140g」の一部の商品から、検査の結果、サルモネラ菌を検出したと発表した。この商品に加え、安全を最優先し、同じ工場で製造した五商品の計六商品を自

主回収する。同じ工場で作成した五商品は「Pet's One 豚耳7枚」「ブタミミ細切りソフット」「ブタ鼻2個入りパック」「豚耳シュリンク1枚」「豚鼻シュリンク1枚」。同社は回収対象商品をペットに与えないよう呼びかけている。商品代を返金する。

◎シンフーズ「おむすび」

シンフーズ(大阪市西淀川区)は八月十三日、同社大阪工場で製造し、近畿地方の西友で販売した「おむすびおむすびソーセイシ玉子」の一部商品にラベルの貼り間違いがあったと発表した。同商品にはアレルギー物質の「鶏肉、豚肉」が使われているが、ラベ

ルの貼り間違いにより表示が欠落した。同成分にアレルギーがある場合は食べないよう注意を呼びかけている。大阪兵庫、京都、滋賀の四府県の西友十六店舗で八月十二日に販売した百三個が対象。賞味期限は八月十三日午前一時。健康被害の申し出はないという。

◎ヤマハ「アダプター」

ヤマハ(静岡県浜松市)は八月二十五日、単品販売と同社製品に同梱したACAアダプターの一部において、溶融や発熱に至るおそれがあることが判明したとして、無償交換を発表した。本体には問題ない。交換対象は品名「PA-300C」の製造番号の五七七桁目が「1BA」のもの。

今年九月のお彼岸は、昨年以上の深刻なコロナ禍の中で迎える。心静かに法事を考える機会として位置付けてみてはいかがだろうか。